

茂木町北部地域における地域資源の保全とその活用に向けた取組について  
The Approach toward “ The conservation of Regional Resources and their  
Practical Use ” in northern Motegi Town

青 木 寛 和  
(Hirokazu Aoki)

1．はじめに

中山間地域は、地理的、経済的不利性と相まって、過疎化・高齢化の進行が著しく、耕作放棄地の増加と共に、地域活力の低下や農村の荒廃、さらには農業生産活動を通して維持されてきた多面的機能の低下が懸念されている。

本報では、これらの課題に中山間地域総合整備事業など各種事業を取り入れながら、農村の振興や地域の活性化に向けて取り組んでいる茂木町の北部地域の紹介を行う。

2．地域の概要

茂木町は、栃木県の東南部の茨城県境に位置し、面積は 172 km<sup>2</sup>、南北に細長く、標高 200m 前後の八溝山系に含まれ、町の約 65% を山地が占める中山間地域である。

人口は 16,400 人余りであるが、年々減少しており、高齢化率は 2000 年の国勢調査で 28% (県平均 17%) と県平均を上回っている。

また、耕作放棄地の割合も高く、2000 年農林業センサスでは、25.7% (県平均 3.7%) となっており、高齢化率と共にいずれも県平均を大きく上回っている。

3．取り組み事例の紹介

(1) 牧野地区の取り組み

取組内容 牧野地区は、地域の主力作物であったたばこの生産が衰退する中、農業者の高齢化や基盤整備の立ち後れから、耕作放棄地が著しく増加していた。

この様な状況に危機感を募らせた地域住民は、荒廃が進む農地を蘇らせるため、平成 10 年度に「牧野地区むらづくり協議会」を発足させ、そばオーナー制やそば打ち体験など、そばを活用した都市と農村の交流による地域の活性化に取り組むこととなり、平成 13 年度には、そばや山菜などの地域の食材を都市住民に提供しようと、「そばの里まぎの協議会」が発足した。

しかし、そばの生産を拡大するためには、未整備の農地は生産性が悪く、また、都市住民との交流を促進するための食材供給施設や交流施設がないなどの課題を有しており、この解決を図るため、平成 14 年度に採択された中山間地域総合整備事業を中心に、生産基盤や施設の整備に着手した。

平成 14 年度は、中山間地域総合整備事業の活性化施設と県単独補助事業による地域食材提供施設の合築で、農村レストランを有する交流活動の拠点施設が完成した。また、平成 15 年度の圃場整備の完了によって、かつての耕作放棄地は農地に復元され、安定的なそばの供給が可能となった。

成 果 牧野地区は、そばを活用した交流型観光農業の導入や交流活動拠点が確

保されたことで、都市と農村との交流活動が活発になっている。農村レストランはそばを中心とした多彩なメニューで好評を得ており、活性化施設はそばオーナーの活動など交流活動に積極的に活用され、地域の活性化の一翼を担っている。更に基盤整備により耕作条件が改善されたことで、そばの作付け面積が大幅に増加し、耕作放棄地の解消が図られた。（表1）

## （2）竹原地区の取り組み

取組内容 竹原地区は、直接支払制度等の実施による、むらづくりの気運の高まりから、平成15年度に地区の全世帯30戸が参加して「竹原郷づくり協議会」を発足した。協議会では、ふるさと水と土基金等を活用して、耕作放棄地の発生防止や解消、あるいは、地域の活性化に向けた具体的な取組みに向けて、ワークショップによる専門家の意見や指導を受けながら地域資源の発掘や保全・利活用の検討を重ねた。

その結果、棚田や竹を地域の素晴らしい資源として位置づけ、都市との交流を図りながら、地域の活性化に繋がる活動を行うこととなり、平成15年度に棚田を保全するため「とちぎ夢大地応援団」による棚田の稲刈りや草刈りなどのボランティア活動を行った。

このような活動を経て、現在、竹原地区は、「かぐや姫の郷竹原」をキャッチコピーに、「かぐや姫の郷竹取応援団」と称して竹林整備を行うボランティア活動(写真1)や棚田オーナー制、遊休農地へのブルーベリーの植栽、タケノコ堀り体験など実施し、地域資源の保全や地域の活性化に向けて取り組んでいる。

成果 管理が行き届かずに放置されていた竹藪は、地域の貴重な資源として利活用されることになった。また、発掘された地域資源は、ボランティア活動のみならず、竹の炭焼きやブルーベリーの摘取り体験など新たな都市と農村の交流推進に活用されはじめている。

「とちぎ夢大地応援団」とは（写真2）

「農業・農村の持つ豊かな地域資源の保全」を共通の目標に次の三者が協働する組織。  
地域資源保全活動（ボランティア）への参加を希望する都市住民等

ボランティアを必要とする地域住民 活動情報の収集・提供等を行う県、市町村等  
4. おわりに

中山間地域の振興に向けては、総合整備事業等による生産・生活基盤の整備をはじめとして、農業生産活動等の継続や地域住民活動等の展開に対するソフト支援など、様々な事業を取り入れ、農村の持つ豊かで多様な地域資源を活用しながら施策を総合的に展開することが重要である。しかし、それには、地域住民の熱意や創意工夫と都市住民をはじめ、多くの人々が農村の持つ地域資源に対する理解を深めることが必要不可欠である。

表1 牧野地区における土地利用面積の推移

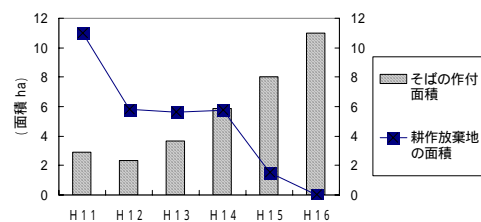


写真1 竹取応援団の竹林整備



写真2 茂木町河又地区での活動

